

とすめぎ

令和8年初夏

- ◎上平町「阿弥陀如来-観音堂」の祭礼が行われました
- ◎瑞浪北中卒業生が感謝の奉仕作業を行いました
- ◎今年も土岐川に鯉のぼりが泳ぎました
- ◎「小中合同資源回収」が行われました
- ◎公共施設の整備が進んでいます

【探訪と再発見】：櫻堂薬師の「涅槃図(ねはんず)」

【郷土再発見】：益見地区 猿子砦跡(さるごとりであと)

＜差込頁＞令和8年度まちづくり事業計画・予算・委員名



「半夏生(はんげしょう)」：水辺に群生する白の斑がたいへん美しい涼しげな植物。「半夏生」の名は、夏至から11日目を半夏生(はんげしょう)と呼び、その頃に花を付けることから名付けられたそうです。葉っぱの半分ほどが真っ白な白粉を塗ったような様子から「半化粧」とも呼ばれます。 写真：令和7年6月清水区にて撮影

上平町「阿弥陀如来・観音堂」の祭礼が行われました

3月9日(日)、上平観音堂(上平集会所)で観音様の祭礼が行われ、地域の多くの住民が参拝しました。天眼山大通寺住職による読経とご講話があり、会場には穏やかな時間が流れて地域がにぎわいました。

上平観音堂には、平成29(2017)年に瑞浪市有形文化財に指定された「上平観音堂の金銅装筧 附木造阿弥陀如来及両脇侍坐像/木造二天王立像(うへだいらかんのんどのこんどうそうおいつけたりもくぞうあみだによらいおよびりょうきょうじざう/もくぞうにてんのうりゅうぞう)」が伝わっています。上平観音堂に納められている「筧(おい:修験者らが仏具・経巻・仏像等を納め背負う道具)」は天正20(1592)年に制作された大変貴重なもので、精巧な金銅装飾を備え法華経を写経し日本全国の霊場に奉納して歩く廻国納経(かいこくのうきょう)の巡礼行に用いられたことが墨書から確認できます。

地域に受け継がれてきた文化財、上平観音堂の詳細は市ホームページからご覧いただけます。



大通寺住職の講話を聴く参加の住民(令和7年3月撮影)



金銅装筧 附木造阿弥陀如来及両脇侍坐像/木造二天王立像(市有形文化財)

瑞浪北中卒業生が感謝の奉仕作業を行いました

3月14日(土)午前、瑞浪北中学校ではPTA主催の「ありがとう除草清掃奉仕作業」が行われました。

令和7年度卒業生約50名をはじめ、地域や一日市場「かつぎ会」の皆さん、保護者、そして北中の先生方20名以上が参加しました。

参加者は運動場周囲の法面の草刈りや除草作業に汗を流し、かつて学んだ校舎への感謝の気持ちを込めて丁寧に作業を進めました。

卒業生にとっては思い出の場所をきれいにする貴重な機会となり、地域と学校が協力して新学期を気持ちよく迎える準備が整いました。温かな交流とともに、北中らしい「ありがとう」の心があふれる奉仕活動となりました。



多数のPTA、地域住民が参加しました



草刈り機教室の修了女性の参加もありました



多くの卒業生の参加にPTA会長が感謝の挨拶



気持ちのこもった働きぶりでした

今年も土岐川に鯉のぼりが泳ぎました

今年も土岐川の河川敷に色とりどりの鯉のぼりが泳ぎ、地域に春の風景を届けました。4月29日(祝)から5月5日(祝)の期間、桔梗こども園と土岐小学校の境目の土岐川右岸河川敷に十数匹の鯉のぼりが泳ぎました。

この取り組みは、家庭で鯉のぼりを揚げる姿が減る中、土岐地区の子どもたちに季節の伝統を感じてもらおうと、「土岐川河川敷に鯉のぼりを揚げる会」が令和4(2022)年に始めたものです。今年で5回目を迎えました。発起人の可知正己さんが昨年急逝され、活動の継続が心配されていました。それでも地域の有志により支柱3本が設置され、無事に掲揚が実現しました。会員の減少や高齢化により支柱の本数は年々減っているとのことですが、地域の思いが込められた鯉のぼりは、今年も元気に空を泳ぎました。



会の皆さんの準備の様子



5月の空を泳ぐ鯉のぼり

「小中合同資源回収」が行われました

5月10日(日)瑞浪北中学校区(4小学校区)で「小中合同資源回収」が行われました。土岐小学校区は土岐小運動場を集荷場として紙類や布など大量の資源が次々に運び込まれ、瑞浪北中の生徒が中心となって仕分けや積み込みなどに大活躍でした。明世小学校区は化石公園、日吉小学校区は日吉小運動場、釜戸小学校区は釜戸小運動場に資源が集荷され、どの会場も各地区の瑞浪北中生の活躍が光っていました。集められた資源は各学校の教育活動の支援や地域環境の維持に役立てられます。



土岐小学校運動場の仕分け作業の様子

公共施設の整備が進んでいます

土岐橋の架け替え工事は、橋脚完成後しばらく進展が見られませんでした。1月20日に上部構造が設置され、工事が大きく前進しました。現在は周辺道路の整備も並行して進められており、地域の交通環境がより安全で便利になることが期待されています。橋の完成は令和9(2027)年夏頃の予定です。

土岐小学校の外壁塗装・防水処理・ひび割れ補修等改修工事の工期(公開情報)は、1期工事(北舎棟ほか)が令和8(2026)年2月14日までに完了し、2期工事(南舎棟ほか)が令和9(2027)年2月12日までの予定で進められています。

国道19号瑞浪恵那道路工事の鶴城からJR、土岐川にかかる陸橋と下沢・名滝へつなぐ道路の工事が完成しました。国道19号瑞浪恵那道路は、瑞浪市～恵那市を結ぶ約12.5kmの新バイパス。リニア中央新幹線(令和9年開業予定)との連携も目的の一つです。全線完成時期の予定は明示されていませんが各工区の工事予定から全線開通は令和9(2027)年以降と思われます。



徐々に完成時のイメージが見えてきた土岐橋



第1期工事用の黒い防護ネットが外された土岐小学校校舎



鶴ヶ城登城口から望む完成した瑞浪恵那道路の陸橋

櫻堂薬師の「涅槃図(ねはんず)」

各寺院では毎年、旧暦 2 月 15 日（現在の暦では 3 月 15 日ごろ）に、お釈迦様の入滅を偲ぶ「涅槃会（ねはんえ）」という重要な仏教行事が行われます。「涅槃（ねはん）」とは、煩惱の火が消え、人間の本能的な苦しみから解放され、心の安らぎを得た状態を指し、転じて「死」を表す言葉としても用いられます。お釈迦様が亡くなられたことを「涅槃に入る」と表現します。

かつて涅槃図は、文字を読めない人々にも教えを伝えるために描かれたもので、お釈迦様の入滅の情景を表した絵画として、古くから涅槃会で掲げられてきました。一般的な涅槃図では、中央に宝台（寝台）に横たわるお釈迦様を描き、その周囲には嘆き悲しむ菩薩や弟子、俗人、動物たちが配置され、上部には天から飛来する摩耶夫人が描かれます。

瑞浪市土岐町の櫻堂薬師に伝わる本涅槃図は、絹本著色の大作で、現在も毎年 3 月 15 日の涅槃会で使用されています。縦 322 センチ、横 256 センチの大きな作品で、寝台の釈迦像は比較的小さく、その周囲に多くの会衆や動物が動きのある姿で描かれています。このような構図は、鎌倉時代以降に主流となった涅槃図の特徴です。図の背面には「東濃土岐郡神籠村／奉寄附涅槃像／瑞櫻山法明寺什物」と記され、さらに「本願主 中嶋是助用重」「同施人 小栗久左衛門勝仍」を含む 28 名の寄進者の住所・氏名が書かれています。これにより、本涅槃図が近隣住民を中心に、長野や京都など遠方からの寄進も受けて制作・奉納されたことがわかります。また「享保十七壬子歳十一月吉辰／絵師京都／岡村治良衛門」という記載から、制作年代・場所・絵師も明らかです。



令和 8 年 3 月 15 日（日）の涅槃図の公開の様子

さらに櫻堂薬師には、この涅槃図の制作に関わる古文書が 2 通伝わっています。現在は一具として表装されていますが、前半は絵師から表具師への発注書とみられ、後半は涅槃図背面に記された寄進者 28 名と同じ氏名が並ぶことから、背面の記載内容を指示した文書と考えられます。（参考：瑞浪市HPより）

「郷土再発見」

益見地区

さる ことりであと 猿子砦跡



砦跡から見た瑞浪駅方面



右正面から見た砦跡

猿子砦の砦跡は、大通寺墓地の東隣地の高台にあります。ここからは、瑞浪市街はもとより、東は鶴ヶ城、西は土岐市まで見渡せます。猿子七郎国行が砦の主で、国道19号線バイパス工事により少し削られました。

砦跡には、石祠（天明6年：1786）が祀られています。築城の様式は、鎌倉時代の名門吉良氏により築かれた、東京世田谷の豪徳寺城内の世田谷城の様式と同じ造りです。

発行元 土岐地区まちづくり推進協議会
編集 情報発信部会

連絡先 ☎ 0 5 7 2 - 5 6 - 0 1 3 6（直通） 加藤
発行日 令和 8 年 6 月